

コロナ禍における韓国のオンライン授業(高校・大学)

— 現地からの報告とこれまでの経緯 —

関東国際高等学校

副校長 黒澤 真爾

本日の発表の流れ

1. 韓国の防疫と学校教育(概観)
2. 高校におけるオンライン授業
 - ・日程等の変更事項
 - ・オンライン授業実施への感想(生徒・教員)
 - ・各メディアの記事より
3. 大学におけるオンライン授業
 - ・年度当初における対応(建国大学)
 - ・1学期時の学生の評価(建国大学)
 - ・1学期終了時の教員の評価(ソウル大学)
4. 現地からの報告
 - ・富山真由美さん(慶熙大学)



高校のオンライン授業

高校の日程等の変更

	通常	今年度
年度始業	3月	4月以降
授業形態	全員登校対面型	非対面型(感染状況に応じて、一斉／分散登校を実施) 教育放送(EBS)、ZOOM google-Classroom 他
前期試験	6月末	7月初旬
大学入試 (随時)	9月以降願書提出	9月以降願書提出 面接、小論、実技の日時変更 オンライン面接の導入
大学入試 (修能)	11月	12月
後期試験	12月初旬	12月以降



高校生の感想 “良かった点”

日韓高校生インタビュー 7月

-
- ・時間に関係無く1日の中で講義を聴き、クイズ形式で簡単な問題を解いて提出するだけで出席と認められるため、簡単で良かった。

(K高校 Classting 使用)

- ・質の良い授業だった。英語はオフラインより進度が早いので、何度も聞き直せるのが良い。

(S高校 ZOOM、Google classroom 使用)

- ・登下校の必要がないため、寝る時間が増えた。

(K高校、ZOOM使用)

- ・家族との時間が増えた。いつも帰りが12時だったので。

(S高校、ZOOM、Google teams使用)

- ・おやつを食べながらリラックスして授業が受けれた。

(H高校、EBS講座)

高校生の感想 “困った点”

日韓高校生インタビュー 7月

-
- ・授業に集中できない。質問ができない。 (K高校 Classting 使用)
 - ・授業中に居眠りする生徒がいる。目が疲れる。(S高校 ZOOM、Google teams使用)
 - ・説明が詳しくなく、わかりづらかった。 (H高校 EBS講座)
 - ・自分で学習管理するのが大変。怠けてしまう。 (H高校 EBS講座)
 - ・ネット環境が悪く、先生の声が途切れる。 (K高校 ZOOM使用)
 - ・アクセスが集中してサーバーがダウンする。 (S高校 ZOOM使用)
 - ・先生と生徒の意思疎通ができず、授業が遅れがち。 (K高校 ZOOM使用)

教員の感想 (K高校 日本語教師 12月)

-
- ・オンライン授業は到達度において支障があると、多くの教員が言っている。
 - ・教師が一目で全員を認知できないため、生徒が故意に接続を絶ってもわからない。
 - ・授業の進みぐあいを遅くしたり、分量を少なくする等の工夫をしている。
 - ・大きな問題として、低学年になるほど校内での対人関係を築けず、社会性の欠如に至るようだ。
 - ・既に教育庁所属の相談機関には、多くの生徒たちが心理相談を受けに来ている。
 - ・校内暴力問題も非対面であるにも拘わらず、SNSやメッセージャーを通して誤解、名誉棄損、いじめといった形で広がっている。
 - ・なんとか試験期間は1／3登校で試験を実施しているが、成績処理も難しく、欠時の処理も大変だ。家族の中に隔離対象者がいる場合、登校中止になるため、これらの生徒に認定点を与えるかどうか大きな問題になっている。

“非対面授業による学習不平等”

コロナ19により、去る1学期は始業が4回にもわたって延期され、オンライン非対面授業でなんとか授業時間数を埋めている状況だ。2学期開始後も、相変わらず非対面授業が主で、限定的に分散登校が行われるにとどまっている。**非対面授業の副作用**は、思ったより深刻だ。最近、全国教職員労働組合が実施したアンケート調査では、「**学習格差の拡大(61.8%)**」が最も問題だとしている。また、教育部主管で韓国教育學術情報院(KERIS)が全国初中高教師を対象に実施したアンケート調査でも、応答者の80%が、オンライン授業実施以降、生徒間の学習格差が広がったという結果が出ている。

学習格差が拡大した理由として、①生徒の自律的な学習能力差、②**家庭の学習サポートの有無**、③生徒・教師間のコミュニケーション不足、④**塾等校外教育の有無**、⑤**学習環境の変化に対する適応力**等、を挙げている。問題となるのは、この理由中、**3項目**が所得水準に左右される要因であり、公教育システムを通じた対面授業が無くなり、**所得水準による格差**がさらに広がったという点だ。

現場教師の声 **우리의 목소리를 들어 주세요!**

今日も同期型授業をされていて教室のインターネットがダウン！いつものことで、生徒も私も「またか！」と思いつつ、管理者は何が現場に必要で何が問題なのか、細かな関心は無い。ただ、できないことについての責任追及をするだけ。オンライン授業を終えて職員室に戻ると、仕事が山のよう、分散登校した生徒の対面授業もしなければ・・・。

今日は食事をとる時間も無く、その上、いつコロナに感染しても不思議でない教室と給食室の生徒たちの密な状態・・・。そのうち感染者が出たら、教師の責任だけ問われる。教師に対する不信感、劣悪な環境、メディアで包み隠された先進防疫教育。今年は教師として深い挫折感と懐疑心を感じている。

それでも、愛する生徒のために頑張ろう！！

大学のオンライン授業

今年度初頭における対応（建国大学）

2/17 一般教養科目のオンライン授業混用認定に関する基準案及びオンライン授業関連活用ガイド作成

2/20 オンライン講義動画制作関連教育資料制作及び申請案内

2/28 学部別講義撮影補助のための助手派遣協力

3/09 オンライン授業によるe-Campus聴講及び承諾方法案内

3/11 同期型オンライン授業運営システム制作と支援体制構築

3/16 オンライン講義アップロード時、外部動画ストリーミングサービス(You Tube)利用案内マニュアル配布

3/20 e-Campus内CDN(Content Delivery Network)サービス導入

5月現在、オンライン講義は各教授が作成し、校内ポータルサイトe-Campusにアップ、進行している。

5/04 オフライン対面授業が必要な実験実習科目に対しては対面授業を実施している。

同期型オンライン授業にはZOOMを使用している。

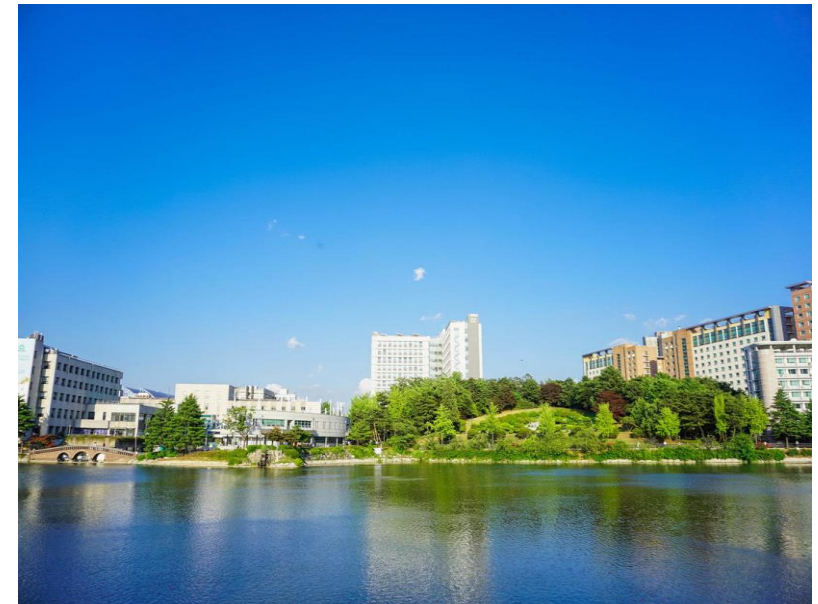
大学のオンライン授業

学生の評価（建国大学総学生会アンケート結果より）

2020年度1学期オンライン講義第1次満足度調査結果報告

- ・調査機関: 建国大学第52代総学生会
- ・調査期間: 3月30日～4月3日
- ・回答学生: 総1, 534人
- ・結果: **現在進行中のオンライン講義について満足していますか？**

とても思う	→	88名 (5.7%)
そう思う	→	295名 (19.2%)
どちらでもない	→	424名 (27.6%)
そう思わない	→	468名 (30.6%)
全然そう思わない	→	259名 (16.9%)



大学のオンライン授業

ソウル大学 教員対象アンケート調査

実施日： 2020年 6月中旬

対 象： 教員 3,344名

応答者： 教員 704名

返 答： 質問項目によっては複数回答可

結 果： 2020年8月16日掲載

(ソウル大学新聞)



ソウル大学アンケート調査結果① 教員対象

・1学期の非対面授業の内容について

→ 同期型オンライン授業(ZOOM) 75.4%

・1学期の非対面授業の満足度

→ 満足 43% 不満足 16.9%

・2学期の望ましい授業形態

→ 非対面授業 47.8% 混合授業 41.4% 対面授業 10.5%

・2学期の望ましい授業方式

→ 同時間オンライン授業(ZOOM) 82.2%

自主制作動画講義 41.5% 課題提出 29.2%

ソウル大学アンケート調査結果② 教員対象

混合授業で進行時の望ましい授業方式は？

1. 各学部で対面授業の出席が最小限になるよう授業期間を圧縮し、一部非対面授業を併用
→ 46.9%
2. 専門科目は対面で実施するが、教養科目は非対面で実施
→ 21.8%
3. 各学部で学年別に専攻授業曜日を分散し、対面授業ができるように調整
→ 19.1%

ソウル大学アンケート調査結果③ 教員対象

望ましい2学期の試験方式は

- 対面試験 59.0%
- 課題提出 46.9%
- ZOOMを利用したオンライン試験 24.3%
- eTLを活用したクイズ形式試験 15.8%

対面試験を望む理由

- 試験の公正性の確保 46.8%
- オンライン試験での監督システム未整備 他

ソウル大学アンケート調査結果 2学期の円滑な授業運営に向けて

- ・迅速で明確な学事日程公示を通して安定的な授業運営を可能にすること。
- ・サイバー大学の試験プログラムを導入するなど非対面試験の公正性を確保できる方法構築。
- ・非対面講義の質向上のための教員向け多角的支援の導入。
- ・混合型授業が運営される場合、対面授業のために登校した学生が学内で非対面授業を受けられることもあるので、学内カフェや図書館、講義室などが密にならないように施策が必要。
- ・本部が授業運営を個別教員に任せるのではなく、統一的な指針を提示する必要がある。
- ・絶対評価の義務化及びS/U成績評価方式導入など、一貫した統一評価基準が必要。

大学のオンライン授業

ー現地からの報告ー

報告者 : 富山真裕美さん (韓国慶熙大学)

